

報告事項 (1) 2020年度 事業計画

I ばね産業を取り巻く環境

日本の就業者数は6,664万人(2018年)であり、製造業の占める比率が15.9%(1,060万人)となっています。製造業の就業者数は1992年の1,569万人をピークに減少する一方で、労働生産性は自動化や現場での改善活動などで、大幅に向上しています。

2025年には労働力人口の45歳以上に占める比率が60%を超えるとの報告もあります。今後、製造業ではIoTやAIとロボット等の組み合わせにより、更なる省力化と大幅な生産性向上が期待される中、取り組みを加速していくことが急務ともなっています。

「平成」では世界の経済状況や価値観が大きく変化していく中、デジタル技術の進化が日本の製造業に大きなイノベーションをもたらしました。当工業会はこの技術革新の流れを捉えて、会員企業の皆様とともに進化していくことで、持続的な成長を可能としてきました。

ものづくり白書の中でも、日本の製造業の現状として、“職人の匠の技そのものや、品質・技術力を裏打ちする良質なデータが現場に存在するうちに、将来を見据えた対策を行うことが急務である。”との指摘があります。そして、製造業の競争力強化につながる方策として、“熟練技能のデジタル化を強力に推進する。深刻な人手不足を追い風に変え、現場の徹底的な省力化を進めて生産性を向上させる。”との提言があります。

IoTは場所を選ばず、AIとロボットは人を選ばず、グローバルな事業環境を提供できることから、ばね業界としても新たな成長戦略、ビックデータ活用を見据えたオープン・クローズ戦略を策定して、付加価値を上げていくことが不可欠です。

当工業会の強みは会員企業の多様な視点で産業界を俯瞰するとともに、ばねから波及する産業の広い領域で業界を牽引することができることです。「令和」の時代には産業革命以来のパラダイムシフトが現実のものとなり、IoTやAIなどのデジタル技術のさらなる深化を中核とした、ものづくりの技術革新が進むことで、従来のビジネスモデルを根底から覆す時代が襲来すると予測されます。

折しも、2019年11月に消費税が10%に移行して、日本経済に与える影響を憂慮している中で、グローバルなサプライチェーンを大きく揺るがすパンデミックが発生しています。事業継続計画(BCP)を根底から覆すこの事象は、地球温暖化に伴う異常気象などの自然災害とともに、その影響と発生頻度は想定を上回るものとなっています。グローバル化が進む中、地球規模でのBCPの策定を検討していく機会になっています。

2020年度はパンデミックによるサプライチェーンへの影響、及び景気悪化の中での事業計画のスタートは避けて通ることができません。このような状況の下で、当工業会は日本ばね学会をはじめとする関係団体、政府・関係省庁との協力と関係強化、及び業界団体としての活動と意見具申は喫緊の課題となっています。また、2030年に向けた中長期視点からの成長戦略「あるべき姿」を模索する中で、ばねの持つ無限のポテンシャルを発揮すべく、以下の取り組みを継続して実施してまいります。

①2030年のあるべき姿の検討

- ・ 事業環境の変化に対応可能な工業会組織の実現
- ・ 多様な価値観、多様な視点を創出する交流の場の提供
- ・ 3支部(東部/中部/西部)の特色を反映させた事業運営の実施

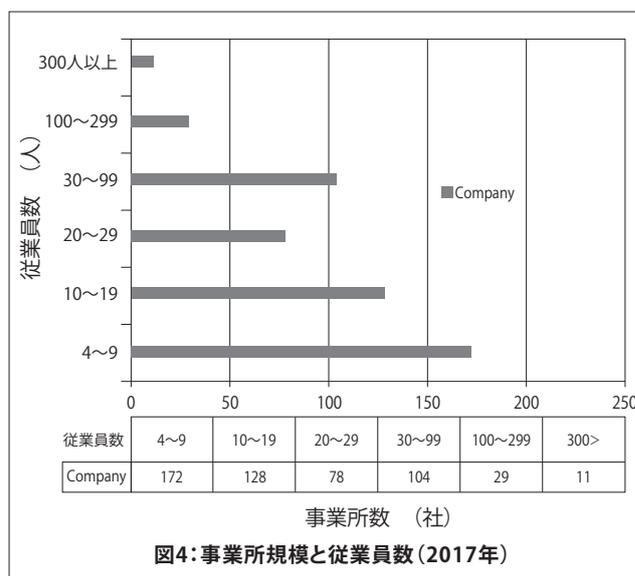
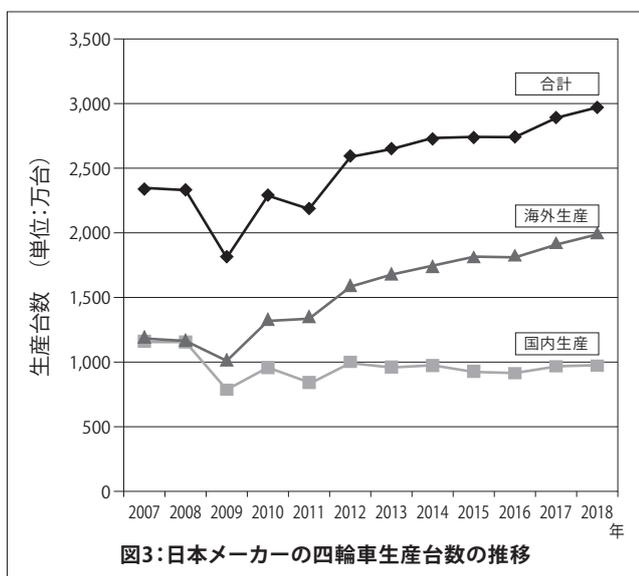
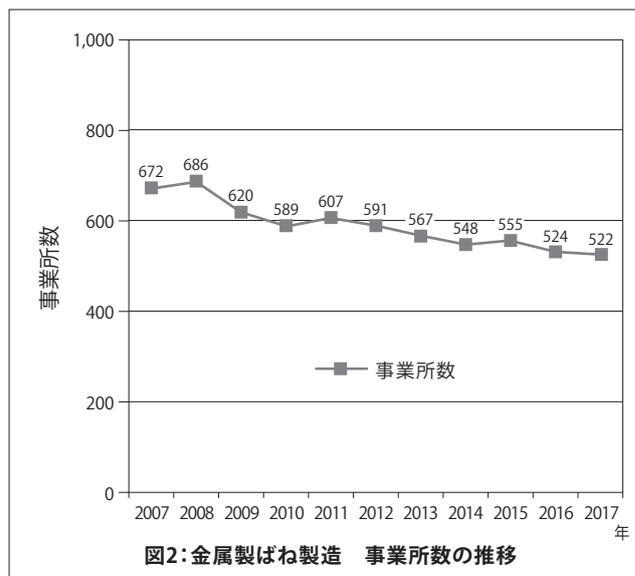
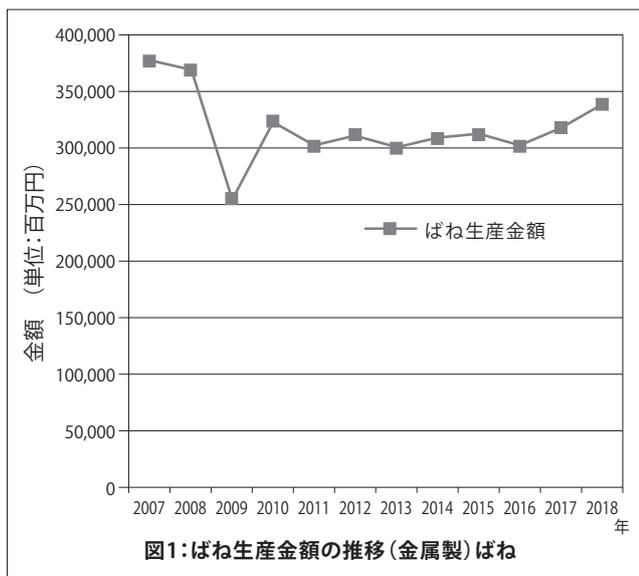
②事業運営（組織力）の強化

- ・ 事業企画力の強化、ビジョンに基づくアクションプランの実施
- ・ 機関誌 / ホームページの運営体制の強化
- ・ 規程類の改定・更新、及び整備
- ・ 次世代を担う人材育成、及び新たな表彰制度の検討

③情報発信力の強化

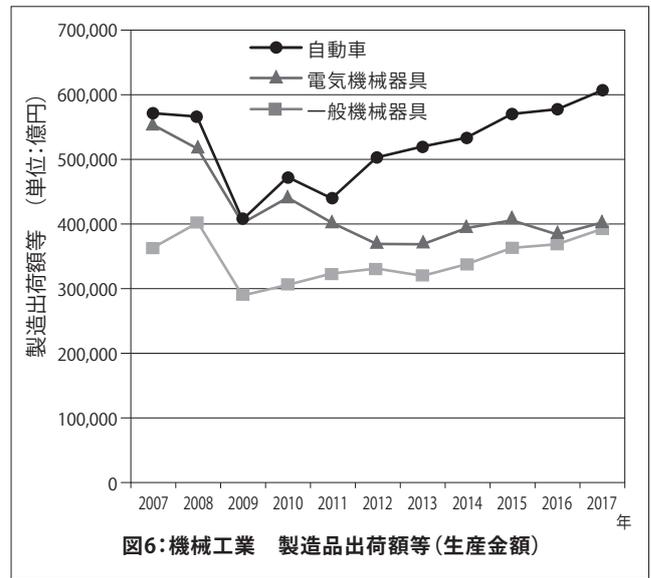
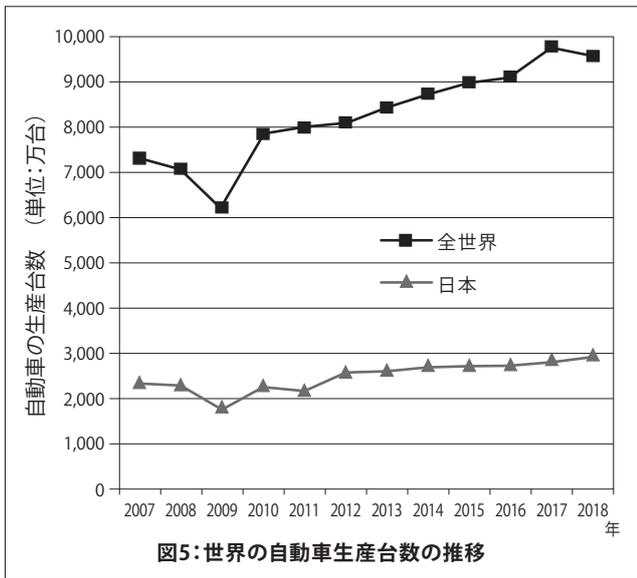
- ・ 会員に対する情報サービス向上、ホームページの積極的な活用
- ・ 海外に向けた情報発信力の強化、産官学との新たな連携の模索

図1～6に日本のばね産業の現状を反映する資料（出典：工業統計表「産業編」データ）を示しました。



[金属製スプリング製造業]

事業所規模	事業所数	従業員数
従業員4人以上	522社	21,655人
〃 3人以上	382社	775人
合計	904社	22,430人



II 2020年度 日本ばね工業会の基本方針

日本ばね工業会は70年間の長きに渡り、日本と世界のばね産業をリードしてきました。ばね産業のグローバル化は市場の拡大がある一方で、海外事業環境の変化、競争ルールの変化などの大きな課題、特に保護主義の台頭などにも直面しています。そのため、新たな国際競争力の強化、勝ち抜くためのイノベーション、創意工夫が今まで以上に必要となってきています。

日本のばね産業は革新的な材料や技術を通じて、世界の製造業に新たな価値を提供し、その成長を支えてきました。「平成」に続く「令和」の時代においても、日本ばね工業会はばねの技術革新と更なる付加価値の創造によって、国内外の製造業の成長を牽引していくとともに、持続可能な社会の構築に貢献していくことが使命であります。

当工業会の活動は従来の枠組みに縛られることなく、国内外の産学・関係団体との連携強化、特に異業種の多種多様な知の融合が図られることで、新たな技術領域や市場創出につながる大きなイノベーションが成し遂げられるものと確信しています。

当工業会ではあるべき姿、果たすべき役割を改めて問い直すとともに、より効率的な対策と対応強化を図っていきます。最大限の効果を上げるためには、日本ばね学会をはじめとする関係団体、政府・関係省庁との協力も、今まで以上に強化していきます。既に従来から実施している国際交流、次世代を担うグローバル人材の育成は企業や国を超えて対応するとともに、共通する課題解決に向けた議論を行い、事業環境の変化に敏感に 대응していきます。

こうした中、日本ばね工業会は2020年度について、下記の主要事業を再確認するとともに、国内・海外の業界を取り巻く環境の変化をしっかりと捉え、協調連携してグローバルに情報を発信していきます。

<一般社団法人としての事業>

- (1) ばねに関する規格・基準の制定と普及
- (2) 金属ばね製造技能士の育成と資格認定試験の受託・実施
- (3) ばねの生産統計

<事業者団体としての事業>

- (1) 体質強化事業、技術調査研究事業、国際交流、広報事業
- (2) 当工業会の目的を達成するための事業